

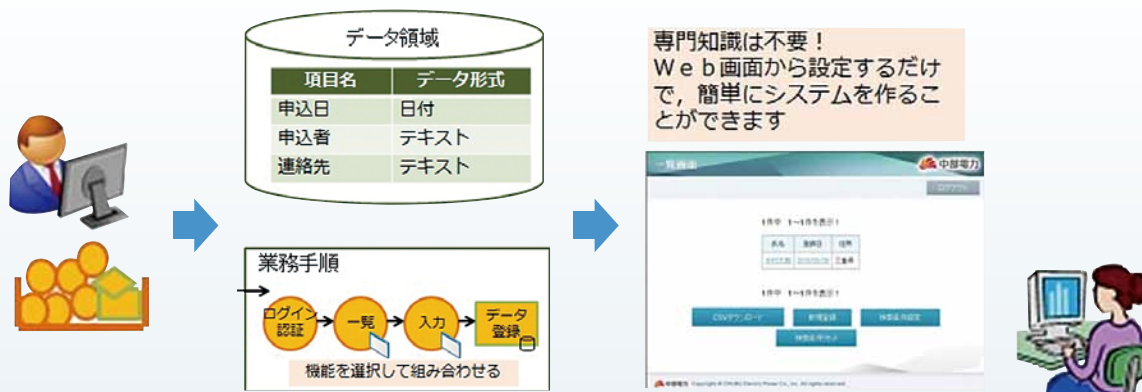
どんどん業務を効率化したくなる

「組立型サービス基盤」で迅速・低コストにシステム化

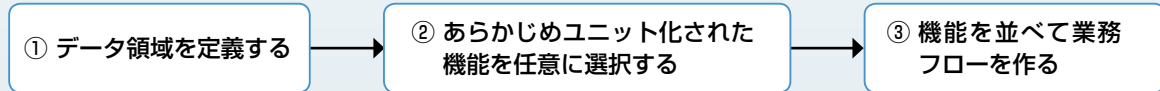
システムは、専門家にしか作れないものと思いませんか？

ExcelやAccessの利用と同様に、手軽にシステムを作ることができ、様々な業務の効率化に役立つ「組立型サービス基盤」をご紹介します。

● 組立型サービス基盤概要



組立型サービス基盤では、以下の3ステップでシステムが出来上がります。



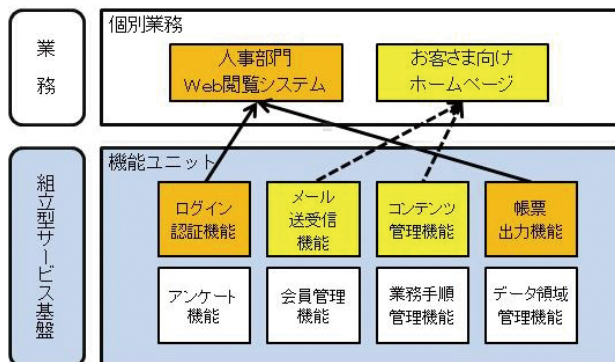
開発の背景

中部電力では、従来より学校向けの携帯メール連絡サービスなど、メールやインターネットを利用したお客さま向けサービスを手掛けてきました。これらのサービスでは、お客さま毎の個別要望に迅速に対応することが求められるため、1つ1つについて一からシステムを作るのではなく、メールやホームページ、会員管理等、サービス提供に必要な機能を共用し、それらを組み合わせることで個別の要件に応えられる基盤を、独自に作り上げてきました。

近年、業務のシステム化においても、より一層のスピード感をもった対応が求められることから、上記のお客さま向けサービスのシステム対応で培ってきたノウハウを活かして、ユニット化された業務機能を組み合わせるだけで業務システムを作ることが出来る「組立型サービス基盤」を完成させました。

2014年3月からは、各部やグループ会社の担当者自身にも利用を開放しており、利用箇所・利用業務が拡大しつつある状況です。

必要な機能を選択して組み合わせることで、システムを作ることが可能



特長

- 短期間で、高品質なシステムを作ることが出来る
- 必要な時に、ただちに着手できる
- 仕様変更や機能追加が容易

お役立ち分野

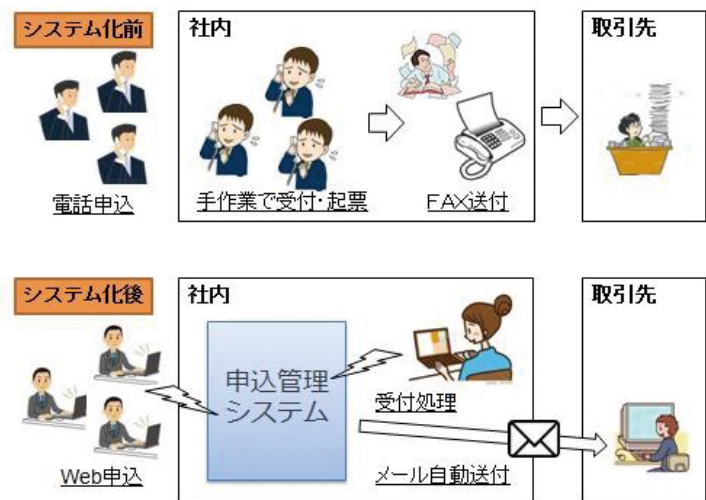


社外・社内を問わず、情報共有や業務の管理を行う業務全般

利用例

お客さまから電話で申し込みを受けて、手作業で起票し、取引先にFAXで発注していた業務について、組立型サービス基盤を利用して、業務担当者自身でシステム化を行いました。

Webでの申込および受付、メール自動送付による発注が可能となり、社内のみならず、お客さま・取引先の業務も含めて効率化出来て、申込が集中する時期にも円滑な対応が可能となりました。



開発者の声



情報システム部
ITインフラグループ
大西 博子さん

●開発で苦労した点

部品を組み立てて開発する手法はこれまでもありましたが、組立型サービス基盤のポイントは、機能部品の粒度・役割を最適化し、システムが複雑になり過ぎず、かつ個別の要件に対応できるようにした点です。これにより、たった10数個の部品を組み替えるだけで、様々な業務フローへの対応が可能となりました。

また、専門知識がなくても直感的に利用できるよう、部品名から画面の配置、操作の動線など、ユーザインタフェース全般にわたって、分かりやすさ・シンプルさを第一に考えています。

●今後の展望

従来では、開発期間や開発要員が確保できない、費用対効果が見込めない等の理由で実施を見送らざるを得なかった案件についても

システム化が可能となってきたことから、多くの業務や部署に利用が広がりました。平成26年度には、中部電力および中部電力グループ会社にて約30ものシステムが構築されており、どれも大きな効果を得られるものばかりです。こうしてシステム化の事例が蓄積されてきましたので、今後は、これらの事例の紹介や汎用化したサンプルの公開を行い、類似の業務やより多くの事業場の業務に、システム化・効率化を拡大したいと考えています。

また、利用者・利用部署が広がったもう一つの効果として、組立型サービス基盤の新たな活用アイデアや改善要望もたくさんいただくようになりました。自分たちで試行錯誤しながら作り上げてきた基盤だからこそ、これからもお客さまのご意見を取り入れながら、より便利で役立つツールへと進化させていきたいです。